

2024年5月31日(金)～6月2日(日) 開聞岳(924m)、韓国岳(1700m)登山(2日目)

昨日はあまり良い天気ではありませんでしたが、夕方から快方に向かい、本日は絶好の登山日和になりました。

今日登る開聞岳は海から直接立ち上がり、標高は924mです。登山口は標高120mですから、標高差800mにチャレンジします。薩摩富士ともいわれているように山容が素晴らしい山です。

開聞岳下山中に思わぬハプニングがありました。中島さんが良くご存じのS社社員長谷さんとバッタリ遭遇したのです。2人はお互いに驚いて目を白黒とさせていましたが、そばでその様子を見ていた吉松には何が起きているのかと分かりませんでした。2人の話は意外な方向に発展して行き、一緒に韓国岳も登ろうということになりました。お陰で賑やかな登山行になりました。

詳細は、レポートの中で紹介いたします。

2日目：6月 1日 土曜日 快晴 開聞岳登山 下山後、国民宿舎「えびの高原ホテル」へ移動

昨日とは打って変わって、今日は快晴で東の空に朝焼けが広がっていた。早く目が覚めた吉松は、民宿の周辺を散歩することにした。



東の空に朝焼けが！



JR 指宿枕崎線踏切からの朝焼け



民宿から望む開聞岳

民宿近くの道路わきは奇麗に整備されていて色々な花が植えてあった。近所の人たちが色々面倒をみているに違いない。



民宿のご夫婦は早立ちが当たり前の登山客のことを良くご存じで、6時20分には朝食の準備をしてくれていた。



宿の奥さんが準備してくれた家庭料理

納豆も添えてあった。昔の鹿児島では、あまり納豆を食べなかったような気がしたが、今はそんなことは無い。



7時

民宿の玄関前で宿の主人に記念写真を撮ってもらって、早速出発

登山口駐車場は、民宿から3分ほどの所にあった。

ほとんどガラガラ

今日の登山は我々が一番乗りかと思っただが、とんでもない間違いであった。とっくに山頂を極めて、早くも下ってくる登山者がいた。

昨日の雨で登山を断念した為、今日は早朝に開聞岳をやっつけて、続いてえびの高原まで車を走らせ韓国岳(?)にも登るといふ、とんでもない猛者までいた。



ピンクの車が我々のレンタカー

広い駐車場に2, 3台しか駐車していなかったのだが、山には既に何人もの登山者が入山していた。

駐車場から5分ほど歩くと登山口に到着、ここが出発点の2合目である。

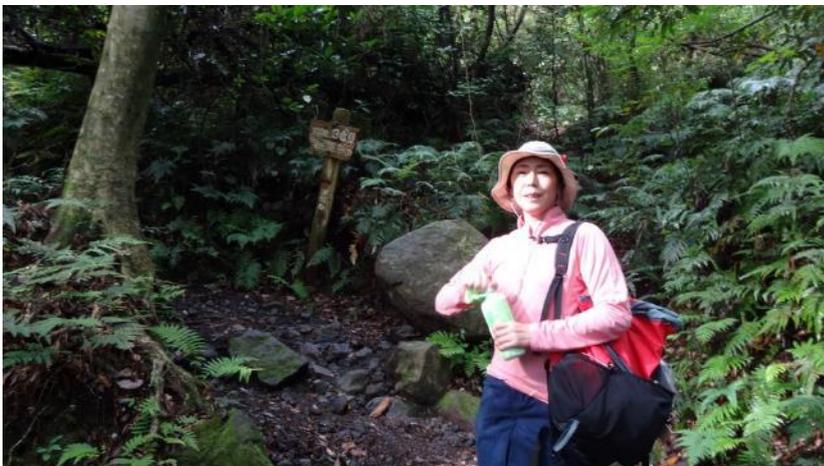


7時20分出発、駐車場の車は少なかったのに、我々よりも先に登っているグループもある。



登山道は火山性の石が積もった砂利道であったが、この辺りは大きな岩や石は少なくて歩きやすい。

20分ほどで3号目に到着し、給水タイム



大分古びてはいるが、3合目の標識(↓)



民宿の主人も開聞岳には何度も登っているようだ。今でも、登山者が骨折などの事故を起こすと、救助に向かうこともあるようだった。

主人の若いころは、登山道は現在のように深くえぐれてはいなかったという。多くの登山客が入山するようになって、徐々に土が流れて登山道は深くえぐれ、行き交うのに苦労する場所も増えてきたとのことである。

(←山肌より大分深くえぐれたところが、現在の登山道になっている。)



8時10分

5合目展望台に到着、暫し休憩



5合目展望台からは、長崎鼻、指宿市山川、大隅半島、池田湖などを眺めることが出来た。



写真右に伸びている岬が長崎鼻



指宿市山川の「たまたて箱温泉」辺り



はるか先に見える陸地は大隅半島



大ウナギが生息する池田湖

8時30分 6合目を通過

山頂まであと1.6Km地点だ。

木の根が張り出し、大きい岩が増えてきた。

岩には苔がこびり付いていて、しかも昨日の雨で濡れているので滑りやすく、注意を要する。



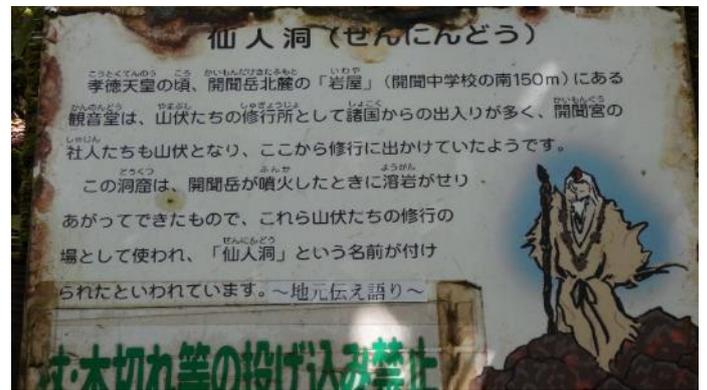
7合目を過ぎるといよいよ岩が増えてきた。登るのにきつい場所ではハシゴが架けてある。



暫くすると岩の間に大きく口を開けた仙人洞が現れた。山伏たちの修行の場所であったという。鹿兒島県大口市出身の小説家「海音寺潮五郎」の作品に、修験者に触れた本があったような気がする。



説明板に、修験者に関する地元の伝えが書かれていた。



9時30分頃、9合目辺りを通過した。



山頂まで400mの地点である。

登山道では花をあまり見ることは出来なかったが、標高が高くなってきて足元にチラホラと現れた。



9合目では、ミヤマキリシマに出会うことが出来た。



山の斜面に咲くミヤマキリシマ

はるか先に見える陸地は大隅半島



9合目からの眺望はよく、大きく広がる東シナ海を望むことが出来た。



陸地の先は、カツオ漁や芋焼酎「白波」の工場がある枕崎市

山頂までの最後の400mは厳しかった。



足場が悪く、ハシゴを利用して登る。



山頂までもう一息の場所では、ロープを利用しながら岩をよじ登った。

そんな厳しい場所にも、花が咲いていた。黄色い野イチゴもなっていたが、あまり甘くはなかった。



9時55分 開聞岳（924m）山頂に到着した。バックには、池田湖が良く見えていた。



中島さんは、おにぎり1ヶをモグモグ。吉松は未だお腹が減っていなかったなので、給水のみ。幸いに山頂には登山者が少なかったため、のんびりとした至福の時間を過ごすことが出来た。



左指で指し示しているのは池田湖



池田湖



山川辺り、その先に大隅半島



指し示すはるか遠くに屋久島



遠くには屋久島の宮之浦岳



枕崎方面&東シナ海

10時20分

計画よりも1時間ほど早く下山を開始した。



山頂直下の下山道で立ち寄った「御嶽神社」

指宿市内の鹿児島一宮「枚聞（ひらきき）神社」の奥宮である。

民宿のご夫婦によると、「枚聞（ひらきき）神社」の祭りも、以前ほどは盛んではなくなったとのことである。かつては盛んだったものだったと、昔を懐かしんでいた。



鹿児島一宮「枚聞（ひらきき）神社」



20分ほど経ち9合目を過ぎた辺りで・・・

中島さんが何やらビックリした声を上げた。

下る中島さんが、登ってくる男性を見つめている。
登ってくる男性も、目を凝らして中島さんを見上げている。
暫くしてお互いに何者かを確認できたらしくて、感激の声を掛け合った。

登ってきたのは、S社の長谷さんという方であった。中島さんとは懇意で、山の話をすることもあったそうだ。長谷さんも、時々クマさん会のホームページを見てくれているらしい。



開聞岳の山中で長谷さんとバッタリ

長谷さんは今年の3月にS社を退社して自由の身
長年の仕事から解放されて、暫しエネルギー補充の為に好きなことをやっている。
偶々、中島さんが開聞岳に登るという情報（中島さんが話した？ ホームページの行動予定表で知った？）を得て、埼玉からはるばるマイカーで鹿児島までやってきて、開聞岳に登ることにしたそうだ。

登山道で会わなければそのまますれ違っていたのだろうが、運よくバッタリと登山道で出会った。

2人の話は益々はずみ、今夜の宿も一緒にして明日は韓国岳も一緒に登ることになった。
俄然、今回の登山行が賑やかになってきた。

お互いに今夜の宿での再会を約束して、ここから長谷さんは山頂を目指して登って行った。
我々は、滑りやすい足元に気を付けながら下山を続けた。



我々は、順調に下山

途中、元気な東京の中学生の集団とすれ違った。修学旅行の一環として登りにきたらしい。船で鹿児島まで来たそうだ。

12時30分 無事下山、約5時間の登山行であった。



駐車場近くの東屋でゆっくりとおにぎりを食べた。おにぎりは民宿で作ってくれた。

ここからレンタカーで、途中であちこち立ち寄りながら国民宿舎「えびの高原ホテル」に向かうことにした。

～後半は中島がレポートします～



13:10 えびの高原ホテルに、長谷さんの追加ができるか確認。
宿泊・朝食はOKだが、夕食の用意はできないとのことでした。
夕食はどこかで食べてきてもらうことにして、えびの高原ホテルで合流することになった。
長谷さんの下山を待たずに私たちは出発しました。
のち、長谷さんは、13:20には下山していたそうです。早い！



13:25 唐船峡 (とうせんきょう)

開聞岳の麓の唐船峡。この峡谷は、周囲を杉の大木群に囲まれ、1年を通じて無尽蔵に湧き出る冷水の水源です。せせらぎではコイやニジマスが戯れ涼感をさそいます。(ネットより)

この潤沢な冷水をつかった、流しそうめんが有名です。鹿児島のお友達にもお勧めされました。しかし、お昼時ともあり長蛇の列で断念。お水を汲み、お土産を購入しました。

←唐船峡の駐車場からみた開聞岳



敷地内には川上大明神があり、池にはチョウザメが泳いでいました。

～うんちく～

鹿児島では人工的流水でそうめんを食べるので「そうめん流し」。
竹樋を使った自然水流で食べるのを「流しそうめん」と区別しているようです。



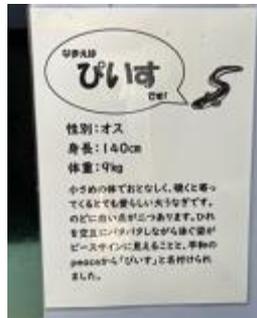
13:50 池田湖

開聞岳からもよく見えた池田湖。
周囲 15Km、最大水深 233mの
九州最大のカルデラ湖である。



1970 年代、目撃情報が相次いだ
未確認生物 = イッシー

九州最大の池田湖は、
湖底が深く、天然記念物の大うなぎ等、
珍しい生物が生息しています。



こちらが大うなぎ

館内には数匹水槽で飼育されている。
名前と特徴が書かれていた。
狂暴で金網を破って隣の水槽に行くことも
あるそうです。
食べるとなると 100 人前？
脂ばかりで美味しくはないそうです。



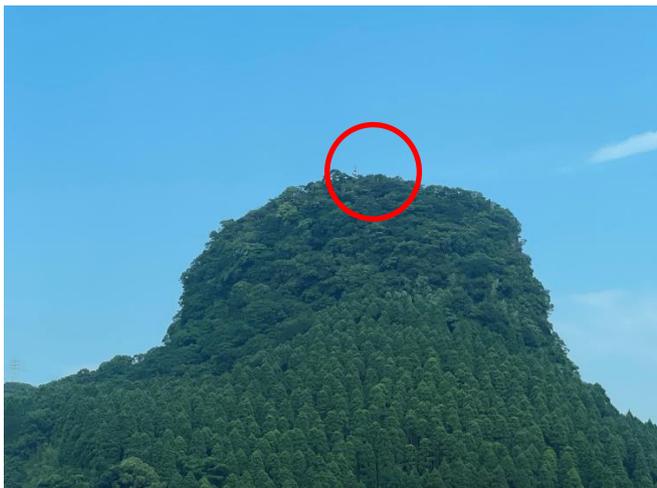
15:00

高速の途中休憩 錫山展望台
桜島がくっきり見えました。

そのころ長谷さんは、
開聞岳を下山後、指宿の砂むし温泉へ。
10 分砂に身を包み、汗をかいて足の疲れが取れたそうです。



15:40
 加治木インターで途中下車。
 吉松さんのお勧めで龍門滝へ。
 「日本の滝百選」にも選ばれています。
 マイナスイオンをたっぷり浴びました。



～吉松さんの疑問～

高速道路から見えるこの山。
 頂上には旗らしき、いや、日の丸の旗がなびいている。
 これはなんだ？ 誰かが設置しているのか？と。



調べました！

蔵王嶽（ざおうだけ）158m。れっきとした山でした。
 ヤマップにも投稿がありました。登山道はあるものの、整備はされてはいなく、かなり急騰の
 ようで、30分くらいで登れるそうです。

そして、最大の疑問の「日の丸」です。記事を発見しました！
 【1984年にNHK大河ドラマ「山河燃ゆ」の主人公モデルが加治木出身であることから、
 加治木を内外にPRしようとのことで、県内外から寄付を募り国旗掲揚台を作成したとの
 こと。】です。
 国旗も縦3m、横4mの特注品で、
 現在も年1回、新しい旗に交換している様です。

ちなみに、
 鹿児島県公式HPに、鹿児島県は「日の丸発祥の地」との情報もありました。



17:05 えびの高原ホテルに到着。温泉に入って汗を流します。
18:00 韓国岳が一望できるレストランで夕食。

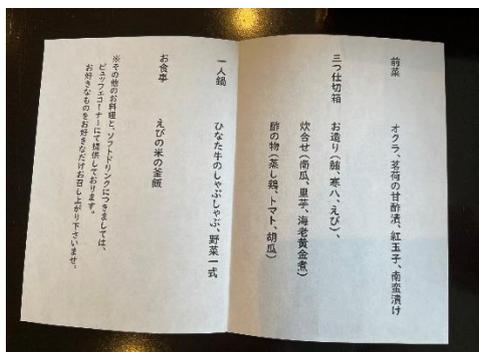
～プチ情報～

えびの高原ホテルは 2024 年 4 月から運営者が変更になりました。このための準備期間があったらしく、夕食の提供は 6/1～開始されました。今日は 6/1。ラッキーでした。

おしながきは、ひなた牛のしゃぶしゃぶなど豪華です。
※夕食のお値段も高かったかも。(^-^;

ビュッフェコーナーにもたくさんご馳走が並んでいました。
特に蒸しベビーコーンが美味しかった。5 本もいただきました。

生ビールに、今日も焼酎をいただきました。



そのころ長谷さんは、
指宿の砂むし温泉後に、知覧の武家屋敷、特攻平和会館を観光後、桜島インターで
お勧めの黒豚トンカツを食べていました。

19:45 長谷さん、えびの高原ホテルに到着。

私たちが食事を終えて、部屋で飲むことにしました。
長谷さんから缶ビールを差し入れていただき、乾杯♪
百名山、登山、鹿児島観光地など色々話してあっという間に 1 時間。

22:00 就寝です。

明日は 3 人で韓国岳にチャレンジします。